

あなたも1日議員会議録



令和5年8月20日（日）



○開議期日 令和5年8月20日 午前9時

○会議の場所 さつま町役場 議会議事堂

○当日の議長 上別府 ユキ（かみべっぴん ゆき） 町女性団体連絡協議会

○当日の議員（質問者11名）

1番	井龍 敏志（いりゅう さとし）	柏原小学校6年
2番	池山 歩希（いけやま ほまれ）	永野小学校6年
3番	徳留 妹紅（とくどめ もこう）	永野小学校5年
4番	有馬 一颯（ありま いっさ）	鶴田小学校6年
5番	山崎 凜音（やまさき りおん）	求名小学校6年
6番	高木 りん（たかき りん）	求名小学校6年
7番	上井 希美（うわい のぞみ）	求名小学校6年
8番	小野原 希歩（おのはら きほ）	求名小学校6年
9番	有馬 伶菜（ありま れな）	求名小学校6年
10番	草留 虎太郎（くさどめ こたろう）	宮之城中学校3年
11番	前野 心絆（まえの ここな）	宮之城中学校3年

○出席した町当局

町長	上野 俊市（うえの しゅんいち）
副町長	高田 真（たかだ しん）
教育長	中山 春年（なかやま はるとし）
総務課長	角 茂樹（すみ しげき）
企画政策課長	小野原 和人（おのはら かずと）
財政課長	富満 悦郎（とみみつ えつろう）
商工観光PR課長	中村 英美（なかむら ひでみ）
ふるさと振興課長	米丸 鉄男（よねまる てつお）
高齢者支援課長	久保田 春彦（くぼた はるひこ）
子ども支援課長	藤園 育美（ふじぞの いくみ）
農政課長	山口 泰徳（やまぐち やすのり）
農業委員会事務局長	松山 明浩（まつやま あきひろ）
町民環境課環境係長	永徳 友一（えいとく ゆういち）
教育総務課長	大平 誠（おおひら まこと）
学校教育課長	岩脇 勝広（いわわき かつひろ）
社会教育課長	永江 寿好（ながえ ひさよし）
学校給食センター所長	満園 誠（みつぞの まこと）

○出席した議会事務局職員

議事係長	西 浩司（にし こうじ）
議事係主任	杉元 大輔（すぎもと だいすけ）

午前9時 開会

○上別府議長



みなさんおはようございます。ただいまから、「あなたも1日議員」を開会いたします。

本日の進行をいたします、議長の上別府ユキです。本日は威厳のある中にも、皆さんと和やかに楽しく進行していきたいと思っております。御協力をよろしくお願いいたします。

開会にあたり、さつま町女性団体連絡協議会を代表して、会長の横山より子のご挨拶申し上げます。

【 横山 より子 会長 登壇 】

○横山会長



皆様、おはようございます。今日は日曜日にもかかわらず朝からお集まりいただきましてありがとうございます。あなたも1日議員の開催にあたりまして、私の方から一言ご挨拶申し上げます。

まずは今日、「1日議員」になってくださる11名の児童生徒の皆さん、本当にありがとうございます。それから今日まで協力していただきました、保護者または学校関係の皆様にも感謝申し上げます。特に保護者の皆様には、7月の事前勉強会からリハールそして本日まで何べんも送り迎えをしてくださってありがたく思っております。そしてこの企画に快く賛同してくださって準備をくださった町長様、教育長先生をはじめ町の職員の皆様にも感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、今、日本は戦争ありませんし、食べることに困ることもありません。この平和で豊かな国でいられるのは、なんでもみんなで話し合っただけで決めるという「議会」という仕組みがあるからではないかと私は思っています。7月の事前勉強会でも習いましたね。みんなで集まって話し合うといっても、この町のみんなが全員集まって話をしたら大変なことになりますね。それで「選挙」というものがあって町の皆さんが代表者を決めて、その代表者の方に話し合ってもらったね。その代表者と言うのが「議員」さんで、ここの議場で議会を行って話し合ってもらいます。皆さんも18歳になったら「選挙権」が与えられます。町の代表の方を選ぶことができます。25歳になったら、「議員」に立候補することができます。結果、「議員」になることができるかもしれません。

さて、今日は半日長いですがけれども、ほかの方の意見を聞いたり、町長さんから直々に町の様子を聞いたりして、本当の議員さんになったつもりで過ごしてもらえたらうれしいです。半日どうぞよろしくお願いいたします。

【 横山 より子 会長 降壇 】

○上別府議長

次に、さつま町長よりご挨拶がございます。

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長



皆様おはようございます。さつま町長の上野俊市でございます。

「あなたも1日議員」の開催にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

まず初めに、さつま町女性団体連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から、男女共同参画社会の実現および地域社会の発展など多方面にわたりご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、令和元年度に開催されました「女性議会」につづき、昨年度からは「あなたも1日議員」の開催を企画され、これからのさつま町の未来を担う子どもたちの視点で町政に対する貴重なご意見を頂戴

する機会を設けていただいていることに、重ねて感謝申し上げます。

さて、本日は「あなたも1日議員」に応募された町内の小学生9名・中学生2名から、日ごろ疑問に思っていることなどについてご意見、ご提案をいただけることになっております。

ここから拝見しますと、皆さん緊張された面持ちではありますが、その表情の中にも、自分が質問したことに対してどういった回答がもらえるだろうと期待もあるのではないのでしょうか。

これからのさつま町を担っていく皆さんが、自らの思いを発言することで、早くから政治、行政へ関心を持ち、この経験が皆さんにとって大変貴重な経験となることを期待しています。

また、今回の取組を通じて、多くの町民の皆様にも、ふるさとさつま町の未来への関心を高めていただくきっかけになればと期待するところであります。

最後に、本日開催の「あなたも1日議員」が行政はもとより、ご参加の皆様にとって有意義なものとなりますようご祈念申し上げますとともに、本日のご意見につきましては今後のより良い町政運営のための参考とさせていただくことをお約束申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

これから、本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配布してある議事日程のとおりであります。

それでは、日程第1 一般質問に入ります。

質問通告書に従い、発言を許可します。子どもたちは、学校名、名前を言ってから発言をしてください。

まず、1番、井龍 敏志さん、お願いします。

【 1番 井龍 敏志 登壇 】

○井龍敏志議員



柏原小学校6年、井龍敏志です。今日は、よろしく申し上げます。ぼくは2つ質問をします。

1つ目は、さつま町の人口が減ってきていることです。さつま町はこれからどうなるのだろうとさみしい気持ちです。そこで、さつま町では人口を増やすためにどんな取組をしていますか。ぼくは、大型ショッピングセンターを作って生活しやすい町にしたり、室内型のテーマパークを作って観光客を増やして、さつま町を知ってもらったらいいと考えました。新しい施設を作る計画はありますか。

2つ目は、さつま町には田んぼや畑がたくさんあります。ぼくは田植えや稲刈りの手伝いをしていますが、毎年、放置されて荒れている田畑を見かけるようになりました。そこでさつま町では、放置された田んぼや畑を有効活用するために、何か取組をしていますか。ぼくは、農家や農業をしてみたいと思っている人に譲ったり、貸し出したりするといいと思いますが、そういった取組はありますか。

【 1番 井龍 敏志 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

井龍敏志さんから、「さつま町の人口を増やすための取組について」ご質問をいただきましたので、お答えします。

まず初めに、世界全体の人口は、現在増えつつあります。しかしながら日本の人口は予想以上に速いスピードで減少に転じてきているところです。

井龍さんが質問されたとおり、さつま町の人口は毎年減っており、8月1日時点で18,842人（推計人口）であり、さつま町が誕生したときには2万6千人ぐらいいた人口が相当な速さで減ってきているという状況です。この1年間でもさつま町から出て行かれた方、またお亡くなりになられた方を含めると、413人（令和4年8月19,255人）もの人口が減っている状況となっています。

特に、生まれてくる赤ちゃんより、亡くなる方がはるかに多く、町の人口が減っていく大きな原因になっています。人口が減ることで困ることがたくさんありますが、お店のことを例にあげると、人口が減るということは買い物をする人も減ることにつながりますので、お店の売上げが減ることで商売が成り立たなくなり、結果としてお店自体がなくなってしまうおそれがあります。買い物のほかにも、会社や病院、食事をするお店なども減っていくこと

が心配され、町としては、人口の減少をどのようにして止めるかが一番大きな問題になっています。

そのために今、さつま町では、人口がなるべく減らないように、また、さつま町以外に住んでいる人が、「さつま町に住んでみたい、住んでみよう」と思ってもらえるような取組として、さつま町で働いてもらえる場所を作るための工場の誘致や、さつま町に住んでもらうための住宅の建設、また、引っ越して来た方や新婚さんへの家賃などの補助などを行っています。ほかにも、子どもの医療費を無料にする取組や、学校給食費を助成する取組など、子育てがしやすいまちづくりにも力を入れているところです。

さつま町から出ていかれる方、亡くなる方も多のですが、たくさんの方に、さつま町に住んでもらえるよう、今お話ししました取組を含めて、様々な取組を進めているところです。

次に、井龍さんから提案のあった、大型ショッピングセンターやテーマパークにつきましては、たいへん夢のある話だと思いました。こうした施設がさつま町にあれば、町での生活が便利になって住む人や観光で訪れる人も増えて、とても活気あふれる町になることが想像できますが、残念ながら今のところ新しい施設ができる計画はありません。

さつま町には、ホテル舟や温泉、鶴田ダムをはじめ、おいしいお米や野菜、肉などさつま町でしか味わえないものが多くあります。また、山や川などの豊かな自然も都会に負けない、さつま町の大きな魅力だと思っていますので、そうした、さつま町の自然、資源を最大限に活かしながら、多くの観光客に来てもらい、町が賑わうような取組も、今後力を入れて進めていきたいと考えています。人口が減っても、さつま町に暮らす人が、将来にわたって、安心して、いきいきと幸せに暮らせるようにするためには、若い人の力が必要です。井龍さんも、将来、高校や大学への進学もあるかと思います。仕事につくために一度、さつま町を離れることがあるかもしれませんが、いつか、さつま町に帰ってきて、生活をしながら、仕事や地域のために頑張っていただけをお願いしています。

次に、「放置されている田んぼや畑について」ご質問をいただきましたので、お答えいたします。

質問の中にもありましたとおり、井龍さんは農業のお手伝いをされているということで素晴らしいことだと思います。さつま町は農業を中心とする稲作地帯であります。ご質問のとおり、耕作されずに長年放置されている荒れた田んぼや畑を「耕作放棄地」と言います。このような農地は、年々増加傾向にあり、農業が主な産業となっている「さつま町」にとっては、とても重大な問題であると考えています。

なぜ「耕作放棄地」が増えるのか考えてみますと、その主な原因として、農業者の高齢化や後継者不足による農業をする人の減少、イノシシやシカなどが田畑を荒らすことで、耕作が出来なくなることや、日本人があまりお米を食べなくなっていることも要因ではないかと考えています。学校では週4日は米飯という事でお米を食べる取組を進めていますが、日本全体がお米を食べなくなっている、食べる量が減ってきていることもあるのではと考えています。

そこで、井龍さんが提案された「田んぼや畑を近くの農家の方に譲ったり、貸し出したり

する」という提案は、町でも、現在、取組を行っています。

町でこのような取組を行っているのが、「農業委員会」というところになります。農業委員会の中には、農地の見回りをしたり、農地の貸し借り、譲ったりこれを斡旋してくださる農業委員さんが35名いらっしゃって、高齢や病気等により、耕作できなくなった方の農地を、もう少し農地面積を広げたいと考えている意欲ある農家の方に、譲ったり貸し出す手伝いをしています。この委員さんの活動により、耕作放棄されそうな農地の増加を食い止め、引続き利用されるよう努めています。

また、地域の田畑を守るために、集落で話し合いをして、鹿やイノシシなどの有害鳥獣から農地を守ったり、水路や農道の補修を行うなど、集落ぐるみで農地を守る取組が行われています。どちらも、さつま町の農業を守る、重要な役割を担ってくださっています。

今後は、新しい農業技術や経営感覚を持ち、夢を持って農業に取組まれる農家の方々の数を増やすことも、耕作されていない農地の有効活用につながると考えています。さつま町に限らず、全国的にも農業のなり手不足がますます深刻な問題になってくる中で、農業に取組む若い方の存在は、とても貴重でありがたいです。

ぜひ、井龍さんも将来なりたい職業の一つとして、農業の道へ進むことも考えていただけたらと思います。その時は、我々も一生懸命全力でサポートさせていただきたいと思います。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありました。井龍さんから何か質問はありませんか。

○井龍議員

上野町長の話聞いて、人口が減ると生活がどんどん不便になることが分かりました。ぼくは今でも必要なものや本などを買うに行くときは、他の市へ連れて行ってもらいます。もしできるならさつま町で色々な年代の方が案心して買い物ができる環境になってほしいです。

住みやすい町、子育てしやすい町なら人口は増えると思います。人口が増えれば農業をしてみたいと思う人もいます。今日は農業委員会の活動も初めて知りました。ぼくの大好きな田んぼの風景がいつまでも残って、さつま町のお米をずっと食べたいです。

ありがとうございました。

○上別府議長

ありがとうございました。井龍君からの感想を含めたお話でした。

担当の方から何かございますか。

○農政課長

さつま町は紫尾山など高い山から流れ出るミネラルたっぷりの水や、畜産農家も多いことから牛糞堆肥などの有機質飼料を使った自然循環型の栽培法も取り入れて、お米を栽培されており、県内有数のおいしいお米の産地であります。また、お米の品種につきましても、ひのひかりやあきほなみ、なつほのかなど品種の特徴を生かし、9月から11月くらいまで収穫が行われます。今後においても、井龍君がいつまでもおいしいお米を食べられるよう農家と共に農業振興に取り組んでいきたいと思っております。

○上別府議長

以上で、井龍敏志さんの質問を終わります。

次は、2番、池山歩希さん、お願いします。

【 2番 池山 歩希 登壇 】

○池山歩希議員



永野小学校、6年、池山歩希です。

今日はよろしくお願いします。

わたしの住んでいる地域の子ども会では、年に2、3回ごみ拾いをしています。その時、たくさんのごみが落ちているのですが、特にたばこのごみが多いです。さつま町を「ポイ捨てなどがないきれいな町にしてほしい」と思いますが、町ではどのような取組をしていますか。

わたしは、喫煙所を増やせばポイ捨てが減ると考えました。喫煙所を増やす考えはありますか。

【 2番 池山 歩希 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

池山歩希さんから「ポイ捨てのないきれいな町にするために」との質問を頂きましたので、お答えいたします。まず初めに、池山さんが、ごみのポイ捨てに関心を持ち、毎年ごみ拾いに参加してくれていることを大変うれしく思い、感謝いたします。

さつま町では、美しい自然と快適な生活環境を守るために「環境美化条例」というきまりを作って、町民のみなさんや事業者のみなさんと一緒になって、空き缶やたばこの吸い殻など、ポイ捨てのないきれいな町づくりに努めています。日頃から町民の皆さんには、それぞれの地域において、道路のごみ拾いや草払い作業など地域の美しい景観を守る活動が行われています。

また、7月の第3日曜日には「環境美化の日」と定め、また、「青少年ふるさと美化活動」などを通して、子ども会や保護者会、地域の皆さんに環境美化活動を行っていただいています。これ以外にも、永野区を含む町内20区の「環境美化推進員」と呼ばれる方々によるパトロール活動や、たくさんの町民の皆さんがボランティアによる環境美化活動を行ってくださっています。

しかしこうした活動がある一方で、池山さんの言われるように、町内の様々な場所でごみのポイ捨てが無くならず、特に道路沿いなどには、車からの投げ捨てと思われるたばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルなどが多く捨てられている現状があります。池山さんが、特に多いと感じているたばこについては、令和2年4月に国が健康増進法という法律を改正し、学校など多くの人が集まる場所では、敷地内でたばこを吸うことが禁止されるようになりました。また、飲食店や交通機関などの屋内では、専用の喫煙室がないとたばこが吸えないことになりました。

では、なぜたばこを吸う場所が制限されているのに、たばこのポイ捨てがなくなるのでしょうか。私は、たばこを吸う人の喫煙マナーが一番の問題だと感じています。

そのため、喫煙所を増やすことでこの問題を解決するのではなく、今ある専用の喫煙所や携帯灰皿を使うなど、たばこを吸う人達にマナーを守ってもらう取組をしていきたいと思えます。ポイ捨てがすぐになくなることは難しいかもしれませんが、今回、池山さんがこの問題を取り上げてくれたことで、たばこを吸う大人の人たちが、自分の行動を振り返るいい機会になったと思えます。今後は、町のホームページや公式LINE、広報紙等も利用し、「環境美化について」広く呼びかけを行い、ポイ捨てがなくなるように努めていきたいと思えます。

ごみのない美しいまちづくりには、ごみを捨てにくい環境づくりが大事なことであり、みんなが地域をきれいにしようという気持ちが大事なことだと思えますので、今後も一緒にきれいなまちづくりに取組みましょう。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありましたが、池山さんから何か質問はありませんか。

○池山歩希議員

さつま町へ住んでいる方たちへは今お答えいただいた対策でいいと思えますが、さつま町外から訪れた方たちへはどのような働きかけをしたらいいか教えてください。

○環境係長

町外からさつま町へ入る道路の町境に、これまでもごみのポイ捨て防止に関する看板等を設置して、マナー向上の呼びかけをしてきています。

しかしながら、高規格道路などの道路整備が進み、さつま町への出入口が変わってきてい

るので、これまで設置している看板の効果があまりない場所も増えてきています。

今後は、道路の状況に合わせて、町外からさつま町に来られる方から見えやすい場所に看板等を設置するなどして、呼びかけをしていきたいと考えています。

○上別府議長

以上で、池山歩希さんの質問を終わります。

次は、3番、徳留妹紅さん、お願いします。

【 3番 徳留 妹紅 登壇 】

○徳留妹紅議員



永野小学校、5年、徳留妹紅です。

永野小が閉校したあと、学校があるところがどうなるのか知りたくて質問します。わたしの通っている永野小は、残念ですが来年3月に閉校します。そこで閉校した後の永野小学校がどうなるのか気になります。わたしの一つの案として、「永野金山記念館」にできたらいいと思います。その理由は、金山は永野のいい歴史としてみんなに知ってもらいたいからです。

私が1年生の時に永野ウォーキング大会に参加し、子ども田の神様の役をしました。お客さんがたくさん来ていました。その時に5、6年生のお兄さんお姉さんが語り部隊としてお客さんに金山の歴史を説明していました。その姿を見てすごいなあと思いました。私も高学年になったら、語り部隊をしたいなあと思いました。しかしコロナなどの影響で永野ウォーキング大会はなくなりました。ですが永野金山跡は残っています。なのでほかの地域の人たちにも金山のことを知ってもらいたくてこの案を考えました。永野金山は江戸時代に金の取れた量が日本一だったこともあったり、五代龍作や西郷菊次郎が金山鉱業館長として金山の近代化を行いました。その成果として胡麻目杭跡やトロッコ道鉄橋跡、鉱業館跡などが残っている大切な遺跡です。だからさつま町としてこの貴重な金山跡を守ってほしいです。なので、永野小学校の跡を永野金山記念館にしてほしいです。

【 3番 徳留 妹紅 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

徳留 妹紅さんから「閉校になった学校の利用について」ご質問をいただきましたので、お答えいたします。

閉校後の永野小学校の活用については、わたくしの方からお答えいたしますが、「永野金山記念館」としての活用については教育長の方からお答えいたします。

永野小学校につきましては徳留さんが勉強されているとおり、昔は日本一の産出量を誇っ

た金山で栄えた永野にある歴史ある学校です。その頃の永野地区は人口も多く、とても賑やかな学校だったと聞いています。ですが、永野小学校の児童数もだんだんと減少し、来年4月には、求名小学校、中津川小学校と1つになって、新しい小学校になることが決まっています。徳留さんにとって、今までみんなと一緒に勉強したり、遊んだりしてきた学校から離れるのは淋しいとは思いますが、新しい学校では友達が増えて、今までよりいろんなことができるようになったり、楽しいこともいっぱいあると思います。

そこで、閉校になった後の永野小学校の活用についてですが、まず1つ目に、やりたい事がさつま町のまちづくりを決めている計画などに合っているのかを確認しなければなりません。

町の計画には、これから先、取組みたいと思うたくさんの項目があります。項目を実行するためには、町民の皆様の協力や、多くのお金がかかるので、どの項目を先に行うか、優先順位を付けて進める必要があります。また、みんなの役に立つ公共的な施設に活用できないかを、一番先に考えます。

2つ目に、地域がもっと元気になるための活用です。徳留さんの「永野金山記念館」としての活用は、この考えに合っていますので、とても良いアイデアの1つだと思います。

3つ目に、会社などに売ったり、貸したりする活用方法があります。町が公共施設として使わない時は、会社などに売ったり、貸したりできないか考えます。この場合、地域の方々にも、会社などが何のために使うのか、理解していただくことと、町や地域がもっと良くなるために、本当に必要な活用方法なのか重要なポイントになります。

これから先、永野の公民館長さんを中心に、地域の皆さんで「永野金山記念館」としての活用も含め、色々話し合いをしていただくようお願いをしたいと思います。ぜひ、徳留さんからも意見を届けていただけると嬉しいです。

そして、公民館長さんに、地域の皆様の意見をまとめていただいてご提案いただき、役場も優先順位等をよく話し合い、地域の皆さんと一緒に決めていきたいと考えています。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

【 中山 春年 教育長 登壇 】

○中山教育長



続きまして、徳留 妹紅さんから、閉校後の永野小学校を「永野金山記念館」として活用できないかのご質問をいただきましたので、お答えいたします。

徳留さんにご提案いただいた、「永野金山記念館」としての活用策は、地域特有の資源を生かしながら、地域活性化や慣行などの盛り上がりにもつながる良いアイデアだと思います。徳留さんは永野金山の歴史について勉強されたことがあり、もうご存知かもしれませんが、少し

お話をさせて下さい。

永野金山は、宮之城第4代領主 島津久通が穴川（佐志付近）に“きらきら光る”ものがあるという事で、砂金ではないかと上流の調査を現在の島根県（石見銀山）より専門の人（内山与右衛門）を呼び寄せ調査させたところ、1640年（寛永17年3月22日）に山ヶ野夢想谷で“きらきら”と光る丘を発見し、藩主島津光久（本家）に届け出、幕府に300両を支払い、許可を頂き採掘がはじまりました。当時は「閉じ金」といわれる金の石が掘らなくても見つかったそうですが、その後は穴を掘っていく方法へかわりました。江戸時代の最盛期を過ぎ、明治時代に入ると金の採掘量が減り、新しい西洋式の採掘機械やダイナマイトなどを使った効率的な方法で採掘することになりました。しかし、更なる採掘量の減少により昭和28年に一旦閉山となりました。その後、民間業者（麻生鉱業、島津鉱業）による採掘も再度行われましたが昭和33年に残念ながら閉山となりました。採掘している頃は、永野金山や隣の旧横川町山ヶ野金山に沢山の人々が集まり、多いときは2万人以上の人々がいたといわれ、商店街（飲み屋など）が立ち並び大きな町が出来ていたそうです。

しかし、永野金山街道も数回の大きな火事にあい、金山歴史を語る品物や資料は火災による消失と金山自体が島津家個人の所有だったため、本町においては現在あまり残されていない状況です。

徳留さんの永野小学校を「永野金山記念館」として活用できないかについてですが、もし、活用するとなれば、展示物などが必要になります。今言いましたように現段階で残っている品物（遺品）が少なく、今後もどんなものが残っているのか調査が必要になると思います。

（土地については、個人の土地：島津興業の持物である。）

見つかった品物（遺品）の種類や数によって、永野小学校の施設全体を使うのか、それとも施設の一部を使うのかも検討することになります。

また、見学されたことがあると思いますが、旧薩摩地区にある「ふるさと薩摩の館」にも、数少ないですが永野金山関係の物も展示しています。（手のみ、金山ダツ、尻スケ、山槌、うす（ゆすりバチ）コトボシ、カンテラ、ガス灯）永野小学校の跡地活用について、徳留さんのアイデアである「永野金山記念館」として整備をするということになれば、「ふるさと薩摩の館」などの、近隣にある施設の活用方法などと一緒に、検討することになります。

最後に、今回のご質問をいただき、徳留さんのふるさとを思う気持ちが十分に伝わったところです。先ほど町長の話しにもありましたが、徳留さんの考えを地域の方に一つのアイデアとして届けてみてください。一緒に考えていきましょう。

【 中山 春年 教育長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長と中山教育長から回答がありました。徳留さんから何か質問はありませんか。

○徳留妹紅議員

永野金山について語り継ぐために、語り部隊の活動があります。新しい学校でも取組んでほしいと考えていますが、今後、地域の活動はどうなっていくと思いますか。

○社会教育課長

先ほども述べましたが、徳留さんのふるさとである永野、特に永野金山を思う気持ちが十分に伝わったところです。

町も、地域の歴史や文化を伝承継承していくことは必要で大事であると考えています。教育委員会としましても、たくさん子どもたちに、徳留さんのような、ふるさとを思う気持ちも育ててもらえるよう、学校や地域などで行われている郷土教育に少しでも支援していきたいと感じたところです。

○上別府議長

以上で、徳留妹紅さんの質問を終わります。

次は、4番、有馬一颯さん、お願いします。

【 4番 有馬 一颯 登壇 】

○有馬一颯議員



鶴田小学校、6年、有馬一颯です。

旧鶴田小の跡地は、今はどこが管理しているのですか。また、今後どうなる予定ですか。

ぼくは、「きららの楽校」のように残せるものはそのまま利用して、校庭はキャンプ場や遊べる場所にしたいと考えています。周りに自然が多いので、自然と関わりをもちながら、子どもも大人も楽しめる場所にしたいと考えていますがどうですか。

【 4番 有馬一 颯 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

有馬一颯さんから、「旧鶴田小の跡地利用について」ご質問をいただきましたので、お答えいたします。今どこが管理しているかとのことですが、まだ計画ができていないので、町が直接管理しています。

旧鶴田小学校は、今から61年前に、前の旧鶴田小学校と旧神子小学校が統合して開校された学校で、当時は17学級で745名の児童がいたそうです。今の鶴田小学校が105名ですから、7倍以上の児童がいたこととなります。とても賑やかな学校だっただろうと思います。

しかし、有馬さんが生まれる前、平成9年の鹿児島県北西部地震で、当時の校舎が甚大な被害を受け、現在の温かみのある木造の校舎に建替えられました。それから時が経つにつれ児童数が減少し、昨年4月に旧鶴田小学校と旧流水小学校が閉校し、新しく鶴田小学校が開校しました。

今回、有馬さんにとって思い出のある「旧鶴田小の跡地利用について」ご質問いただいたところですが、徳留さんの質問でもお答えしたとおり、1つ目に、やりたいことがさつま町のまちづくりを決めている計画に合っているか、2つ目に、地域がもっと元気になるための活用であるか、3つ目に、会社などに売ったり貸したりする活用方法はないかなどを考えています。

そのために、町の計画の一つに、人口が少なくなったため、今ある公共施設の使い方を見なそうという計画があります。(公共施設等総合管理計画)

さつま町は、平成17年3月に、旧宮之城町、旧鶴田町、旧薩摩町の3つの町が合併し新しく誕生しました。合併してから18年が経っていますので、町が管理している公共施設も年々古くなり、維持をしていくのにたくさんのお金がかかっています。例えば体育館など、町内各地区に同じような公共施設がありますが、町の人口が減ってきていることもあり、利用者も段々と少なくなってきています。これから先、本当に必要な施設は、早めに修理をして長く使えるようにしたり、反対にあまり使わない施設は、会社などに売ったり、貸したりするなどして、皆さんが大人になって、いろんな面でお金がかからないよう、整理をしていくような取組を進めています。

質問にありました「きららの楽校」と同じような施設をつくるとすれば、「さつま町にキャンプ場などが、さらにもう一つ必要かどうか」、他にも、さつま町に暮らす人が、「安全に住みやすく生活をするために、何を優先的に行うのか」などについて、地域の皆さんや役場も含め、みんなで考えることが大切だと思います。私も有馬さんと同じように、自然が多いさつま町が大好きですので、これからも子どもから大人まで、みんなが楽しめる場所がもっとできないか、キャンプ場だけでなく色々な活用方法を考えてみたいと思います。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありましたが、有馬さんから何か質問はありませんか。

○有馬一颯議員

町長が言われたように、施設が古くなる一方で人口も減っていて、必要かどうか検討しなければならぬことが分かりました。鶴田は宮之城の市街地のように遊べる場所が少ないため、自分たちで行くことが出来ません。子どもだけでも町の方やきららの楽校のような施設に行ける交通手段はあるのでしょうか。ある場合は教えていただけるとうれしいです。また、ない場合はそのような手段を、今後検討していただけるお考えはありますか。

○学校教育課長

最初に、私のほうから、子どもだけで校区外に出かけていくことについてお話しします。

有馬さんも夏休みに入る前に、学校の先生から聞いたと思いますが、町の夏休みのきまりでは、子どもだけで校区外に遊びに行くことについては、控えるようになっているところでは、子どもだけで校区外に出かけていくことについてお話しします。

その理由としては、まず、外出先で万が一、ケガをしたり事故にあったりした場合に、子どもたちだけでは十分な対応が難しいということ、つまり、安全を十分に確保することができないということがあります。

次に、現在、日本のあちこちで不審者事案等が頻繁に発生していますが、子どもたちだけの場合には不審者側からすればターゲットにしやすくなり、子どもたちは被害を受ける可能性が高く、最悪の場合には命を奪われる危険性もあります。

このように、我々は、皆さん子どもたちが安心・安全に過ごしていけるよう校区外への子どもだけで行くことは控えるようお願いしています。

皆さんは、さつま町の今後を背負っていく大切な宝です。我々大人は皆さんの大切な命を守るために、いろんなことを考えていることを理解してください。

このあと、質問にあった交通支援について、企画政策課長から説明があります。

○企画政策課長

有馬さんから、「交通支援」に関するご質問がありましたけど、現在、さつま町内を走っているバスやタクシーなどの公共交通と言われる乗り物の状況についてお話しします。

現在、町内を走っているバスやタクシーなどの公共交通は、大きく4つありまして、まず、一つ目が、鹿児島市や薩摩川内市、空港などに行くことができる「路線バス」、二つ目が、主に宮之城中学校の通学に利用されている「コミュニティバス」三つ目がタクシー、最後、四つ目が、乗合タクシー、この4つになりまして、基本的には、子どもからお年寄りの方まで、お金を払えば誰でも利用できる乗り物になっています。

ちなみに、有馬さんが住んでいる鶴田地区から宮之城地区まで公共交通を利用する場合、必要なお金については、乗合タクシーとコミュニティバスが1回あたり、大人200円、中学生以下は100円と、一番安くなっており、次に路線バス、タクシーの順に高くなっていきます。

この公共交通は、利用される方が行きたい場所や行きたい時間など、目的に合わせて交通手段を選ばれておりまして、例えば、鶴田地区から宮之城屋地や虎居にあるお店での買い物や、読書や勉強のために屋地学習館に行こうとする場合には、路線バス、乗合タクシー、タクシーが利用できますし、ほかには、乗合タクシーで宮之城鉄道記念館まで来てから、路線バスに乗り換えて薩摩川内市や鹿児島市に行くこともできます。

ただ、乗合タクシーについては、車の運転ができないお年寄りの方が、病院への通院や買い物に困らないことを一番に考えて、行き先や走る時間を決めていますので、多くの病院が休みになる土曜日・日曜日には走っておりません。

そのため、子どもたちが休みになる、土曜日・日曜日に利用できる交通手段は、路線バスとタクシーだけになるかと思いますが、先ほどお話ししたように、タクシーを利用するには少しお金がかかることとなります。

現在のところ、町としましては、今後しばらく増える見込みのお年寄りの移動手段を、どうやって確保していくかということが一番に考えているところでして、有馬さんから要望があった件も含めて、公共交通を利用したいと考えている、全ての人の希望を叶えるような移動手段の確保は難しい状況ですが、引続き、お年寄りの方々を中心に、多くの町民の声を伺いしながら、これからも、なるべく多くの皆さんに喜んでもらえる公共交通を目指していきたいと考えています。

先ほどお店の話がありましたが、この公共交通も多くの利用者がいないと会社の経営が成り立ちませんので、有馬さんも、機会がありましたら、ぜひ、公共交通を利用してもらえるとありがたいです。

○上別府議長

以上で、有馬さんの質問を終わります。

ここでしばらく休憩をいたします。再開は概ね10時20分とします。

【 休 憩 】

○上別府議長

休憩に引続き会議を開きます。

次は、5番、山崎凜音さん、お願いします。

【 5 番 山 崎 凜 音 登 壇 】

○山崎凜音議員



求名小学校、6年、山崎凜音です。

僕は給食が好きで、毎日おいしく食べています。毎日のメニューを見るのが楽しみです。先日授業で、地産地消について学びました。その学習の中で、郷土の物は郷土で食べるとさらにおいしく、体にもいいと知りました。そこで、郷土の名産品である西郷梅を給食で出すことはできないでしょうか。今年は梅ちぎりの体験もして、郷土の特産品に興味を持ちました。給食に出れば、きっと町内の小中学生のみん

なが、食を通じて郷土に関心を持つようになると思います。

ただ、好き嫌いがあるかもしれないので、梅干しとしてというだけでなく、料理の中に入れるなど工夫されているとさらによいと思います。

僕自身は、西郷梅に関心を持って、将来、自分で梅農家になって育ててみたいという思い

も持ちました。郷土のことを考え、行動する人が増えるように、ぜひとも給食で西郷梅を出してほしいです。

【 5番 山崎 凜音 降壇 】

【 中山 春年 教育長 登壇 】

○中山教育長

山崎 凜音さんから「学校給食について」ご質問をいただきました。

梅を使った給食については、わたくし（教育長）からお答えしますが、「西郷梅を育てたいこと」については、後ほど町長がお答えします。

まず初めに、梅の歴史についてお話させていただきます。

梅は、飛鳥時代（だいたい1,500年前）に中国から日本に伝わったとされています。江戸時代には、梅と赤しそを一緒に漬ければ風味が良くなるうえ、殺菌効果が向上すると考えられ、梅干しを食べる習慣が広まったと考えられています。最近の研究では、梅を食べることで、疲れた体を回復させたり、おなかの調子を整えたりと健康に良い効果が期待できると言われています。

さて、学校給食は、皆さんが適切な栄養を取り健康の維持・増進を図ることを目標としており、栄養士の先生が季節にあった献立を考えてくれています。その中で、「梅」を使った献立は、いろいろありますが、「梅」自体が主役の料理は、なかなか提供できていないのが現状です。それでも、豚肉などと一緒に料理をしたり、キュウリとあえて梅サラダにしたりと、工夫して提供しています。毎年、給食週間には、地元の特産品を提供しています。数年前（令和元年度）までは、西郷梅の提供もありましたが、最近は、地元産のきんかんなどを提供しています。そのほかにも、地元産のお米や牛肉、野菜などを使い、地産地消に力を入れています。

今後、山崎さんの大好きな、西郷梅を使った給食が提供できるように、生産者の皆さんと協力しながら献立作りを進めていけたらと思います。

【 中山 春年 教育長 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

続きまして、山崎凜音さんの、「将来、西郷梅を育ててみたい」とのご質問に、お答えいたします。

まず初めに、さつま町の特産品である薩摩西郷梅の栽培に興味を持ってくれたことを大変ありがたく思います。

薩摩西郷梅は「南高梅」という品種になりますが、梅の木は花が咲き、その花が受粉することで梅の実ができます。南高梅は南高梅どうして受粉できないため、間に別の品種の梅の木を植えて、鳥やミツバチ、風の力を借りて受粉しています。また、寒さなどの影響も受けやすく、梅の果実を安定して収穫するのがむずかしいところもあります。現在は、南高梅の特徴を引き継ぎながら、病気に強く、梅の果実を安定して収穫することができる、新しい品種が開発されています。

梅の栽培に関心がある山崎さんには、将来、そういった新しい品種の栽培にどんどんチャレンジしてほしいと思います。

梅農家になるためには、農業の勉強も必要になります。さつま町には農業について学ぶことができる、薩摩中央高校がありますし、もっと勉強したいと思ったときは、鹿児島県立農業大学校へ進学して勉強する方法もあります。山崎さんの夢をサポートできるように、町としても全力で応援していきたいと考えています。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありました。山崎さんから何か質問はありませんか。

○山崎凜音議員

新しい品種の栽培に成功した場合、新しい品種の名前を自分で考えることができますか。

○農政課長

山崎さんが新しい品種の栽培に成功した場合は、その新しい品種の名前を自分で考えることはできます。

また、その新しい品種の名前を、周りの人に知っていただくためには、種苗法という法律に基づき、国の機関である農林水産省輸出・国際局知的財産課に対して、ほかの品種と違うという書類や品種の特性を示した書類を、手数料とともに申請し、国が認めると新品種として登録され、対外的に認められるということになります。

国が、似たような品種や名前がないか、詳細にわたり調査し、品種登録がなされるまでおおむね2年くらいかかるようです。

○上別府議長

以上で、山崎凜音さんの質問を終わります。

次は、6番、高木りんさん、お願いします。

【 6番 高木 りん 登壇 】

○高木りん議員



求名小学校、6年、高木りんです。

私が提案したいことは、求名に移動販売車が来るようにしてほしいということです。このことを提案したいと考えたのは、私と母と祖母と一緒に買い物に出かけたときに、祖母から、「申し訳ない」と言われたからです。祖母は一人で買い物に来ることができないからその言葉です。

移動販売車を高齢者の住む地域に来させることはできないでしょうか。私の近所では、祖母を含めて高齢者は増えていますが、近くに生活用品、特に食品の店がなく、車に乗らなくなった人は特に困っています。店を新しく作るのは大変ですが、移動販売車であれば、家の近くまで行くこともでき、便利です。しかも、そうなれば、高齢者だけでなく、近くの人たちも助かることになります。また、車で移動する機会を減らすことができるので、「デコ活」(デカーボナイゼーション+エコロジー+活動=脱炭素で環境に優しい活動)にもなるし、交通事故を減らすことにつながります。

さらにこの移動販売車を毎回同じ店が来るようにするだけでもいいのですが、いくつかの種類の店舗が入れ替わり来るようにすれば、毎日が楽しみになり、高齢者の活気につながるだけでなく、地域みんなが楽しみにするようになり、全体の活性化にもつながると思います。だから、ぜひ求名に移動販売車が来るようにしてほしいです。

【 6番 高木 りん 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

高木りんさんから、「高齢者の買い物支援について」ご質問をいただきましたので、お答えします。

質問の中に、高齢化の話がありましたので、まずは、さつま町の高齢化の状況からお話しさせていただきます。

さつま町内の、いわゆる高齢者といわれる、65歳以上の人口は、約8,100人で、町民の約5人に2人が高齢者という状況にあり、県内43市町村のなかで、8番目に高い割合となっています。そのうち一人暮らしと、高齢者の夫婦だけで暮らしている世帯を合わせて約4,700人で、車を運転できない高齢者も増えていると思われます。

町では、毎年高齢者の世帯に、「生活の中で困っていることは何ですか」というアンケート調査を行っていますが、「買い物に行くことに困っている」という回答は、1番目の「病院に行くこと」、2番目の「庭の草刈りなどを行うこと」に次いで、3番目に多い結果となっています。

特に、求名地区のように生活用品や食料品を売っているお店が近くにない場合、自動車を運

転できない方は、近くに来る「移動販売車」を利用するか「家族や友達、近所の人」の車に乗せてもらったり、買い物を頼んだりするしか方法がありません。

町内では、求名地区以外にも、お店が減っている地区が多くなっており、買い物に困っている方が増えている状況にあります。

次に、お店が減っていった原因を考えると、お店の経営者が年をとったり、跡継ぎがいなかったりして、次第にお店が減ってきたことも理由としてありますが、もうひとつには、車社会が発達するにつれて、人々が簡単に遠出できるようになり、多少遠くても、品揃えがよいお店、一箇所で色々なものが買えるお店を利用するようになり、少しずつ地元商店の利用が減っていったことも理由としてあげられると思います。これは、さつま町に限った話ではなく、鹿児島県内いろいろな地域で起こっている状況です。

こうした、買い物に困っている人への対応として、車で商品を運んでくる「移動販売」が少しずつ広がってきており、さつま町でも、平成27年から、北さつま農協さんが、「笑味(えみ)ちゃん号」という移動販売車で販売を行っています。

現在、さつま町と伊佐市を日替わりで運行されており、求名地区は、毎週木曜日に下手方面から旧JA求名支所、上狩宿、熊田方面などをまわり、野菜や果物、精肉、総菜、日用品などを販売されています。その他に、高齢者のために町が行っている支援は、商店のあるところまで買い物に行くための「乗合タクシー・乗合バス」の運行を行っています。また、身体が不自由な高齢者には、自宅から商店まで送迎を行うサービスもあります。さらに、タクシーやバスを高齢者がもっと利用しやすいように、今年から「高齢者いきいきチケット」という助成券を発行し、高齢者の方が「乗合タクシー」や「乗合バス」を、もっと利用しやすいよう支援を広げています。

今後、町内の高齢者の割合が高くなっていくことと同時に、買い物に困る方も増えていくことが予想されますので、高木さんから提案のあった「移動販売車」の充実を含め、買い物に困る方が少しでも減るような取組を考えていきたいと思っています。また加えてネット社会でもあり、スマホでの注文等も増えているところです。高齢者の方に扱いは難しいところもあるかと思っていますので、移動販売車、またどういう形で買物支援ができるか取組を行ってきたいと思っています。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありましたが、高木さんから何か質問はありませんか。

○高木りん議員

特にありません。

○上別府議長

以上で、高木りんさんの質問を終わります。

次は、7番、上井希美さん、お願いします。

【 7番 上井 希美 登壇 】

○上井議員



求名小学校、6年、上井希美です。

私は、高いところの物が取れずに困っている高齢者を見ました。私は助けてあげることができず、すごく残念でした。そこで、質問です。高齢者のために買い物しやすい施設や支援するような制度はないのでしょうか。近所でも高齢者が増えている状況があることを考えると、困っている人は多いのではないだろうかと思います。高齢者のために、高い所の品物がボタン一つで下りてくるようにしたり、上の方に置かれている商品の説明などが音声で流れるようにしたり、バリアフリーの徹底した店舗があるとよいと思います。このような視点でバリアフリーになっていけば、高齢者だけでなく、障がい者にとっても、さらには自分たち子どもにとっても、使いやすく、便利になるはずです。町にそういう店があれば、高齢者や障がい者にとっては、特に住みたい町になるはずです。そうして、高齢者や障がい者が住んでくれれば、その家族や親戚も訪れるようになって、たくさんの人がやってくる町になると思います。先日、授業で、高齢者の体の動かしにくさや大変さ、障がい者の大変さを体験しました。その授業を通して、高齢者や障がい者は一日を過ごすだけでも、大変な思いをしていると知りました。だから、バリアフリーの徹底した施設やサービスを増やしてほしいと思います。

【 7番 上井 希美 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

上井希美さんから「高齢者や障がい者にやさしいまちづくりについて」ご質問をいただきましたので、お答えいたします。

高齢者や障がいのある方にやさしいまちをつくっていくことは、さつま町だけでなく、日本全体で高齢者が増えることが予想されている中で、とても重要な事だと考えています。役場などの公共施設では、エレベーターやリフトを設置したり、点字ブロックによる案内など、すべての町民の皆さんが安全に、そして、安心して利用できるよう整備に努めているところです。

また町内には、高齢者や障がいのある方が利用しやすいように、専用の駐車場やトイレが

設置されるなどバリアフリー化されているお店もあります。そのほかには、宮之城ひまわり館にある町社会福祉協議会で、身体の不自由な方や高齢者などに、車椅子の購入補助や貸し出しを行ったり、お店まで買い物に行けない方のために買い物支援などを行っています。ヘルパーさんが同行して、荷物の運搬やお金の支払いなどをする買い物支援のサービスもあります。上井さんから提案のあった音声ガイドやボタンを利用する(タッチパネルなど)仕組みは、高齢者や障がいのある方にとって、とてもやさしいシステムだと思います。

ただ、障がいのある方の中には、目が不自由な方、耳が不自由な方、足が不自由な方など障がいの種類や障がいの程度も様々あるため、それぞれに合わせた対応は難しいところではありますが、これからさらに研究が進んでいきますと、多くの方々が簡単に利用できる時もあるのではないかと考えております。

高木さんにもお答えしたとおり、さつま町の高齢者人口は、約8,100人で、町民の約5人に2人が高齢者という状況は、県内43市町村の中で8番目に高い割合となっていて、それだけ高齢者の割合が高い町であることを、まず町民の皆さんにも理解してほしいと思います。その上で、高齢者や障がいのある方に接する時に、上井さんと同じような気持ちで、ひとりひとりがやさしい気持ちで接して、困っている人がいたら気軽に声を掛け、助けてあげられるような障がい者の心に寄り添う「心のバリアフリー」について理解を深めていく必要があるかと思っております。今後につきましても、障がいのある方もそうでない方もみんなが住みやすいまちにしていきたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありました。上井さんから何か質問はありませんか。

○上井議員

ありがとうございました。

私のおばあちゃんは、体が不自由で話すこともできなくて、寝たきりになっています。今は施設に入っているので、顔を見ることも少なくなりました。でも、おばあちゃんには長生きしてもらいたいので、高齢者が長生きできて、家族が安心して預けられる施設をもっと増やしてほしいと思います。これで、私の質問を終わります。

○高齢者支援課長

上井さんのおばあちゃんは、施設に入っていらっしゃるとのことですが、町内には上井さんのおばあちゃんのように、施設で生活を送っている人や、自宅で家族が介護されている人もいらっしゃって、自宅まで来てお世話をしてくれるホームヘルパーさんたちのいる事業所や、昼間に施設に行って、レクリエーションを行ったり、食事をしたり、お風呂に入ったり、リハビリなどを行うデイサービスというサービスなどを行う施設や事業所が全部で50か

所ぐらいあります。

それぞれの施設や事業所の皆さんが、体の不自由な高齢者などのために、一生懸命お世話をされています。

これからもサービスを必要とする人がどれくらいいらっしゃるのかを調べながら、高齢者が長生きできて、家族が安心して預けられる施設や事業所となるように、私たちは指導をしていきたいと思っています。

○上別府議長

以上で、上井希美さんの質問を終わります。

次は、8番、小野原希歩さん、お願いいたします。

【 8番 小野原 希歩 登壇 】

○小野原議員



求名小学校、6年、小野原希歩です。

なぜ、私が住んでいる求名地区には、お店がないのですか。私は求名地区にお店がないので、もっとお店を増やしてほしいという思いを持っています。学校で使う物も遠くまで行かないといけないので、不便で、必要なときに困ることも出てくるからです。普段、えんぴつやノートはイオンまで出かけたときにまとめて買っています。えんぴつやノートをまとめて買いながら、わざわざ遠くに行って買うより近くにあればいいのと思いました。

そこで、求名小学校がなくなったら、跡地に教室ごとに店舗を入れるなど、イオンのようなショッピングモールにしたらいいと考えました。店舗の中に、飲食店もできると、毎日ごはんを作らなくてもすむようになり、母の生活も少し楽になると思います。

そうして近くにお店ができると、そこで働く人など求名地区の人口も増え、にぎやかな求名地区がつかれると思います。そんな楽しい場所ができるといいです。

学校は町のものなので、そこに町の支援があれば、お店も出しやすくなるだろうし、店ができれば、そこに住みたいという気持ちにもなるので、子どもがいるような家族ももっと住むようになってくるかもしれません。

だから、私の住んでいる求名地区にお店を増やしてください。

【 8番 小野原 希歩 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

小野原希歩さんから「さつま町の商業について」ご質問をいただきましたので、お答えします。

小野原さんが住んでいる求名地区は、その昔、求名小学校の周辺に、肉や魚、野菜、お菓子、洋服、文房具などを売っているお店が多く建ち並んでいました。求名、中津川、永野の旧薩摩町内でも、お店屋さんが47店(飲食料品29店)あって、それぞれの地域で、生活に必要な品物が、ほぼ揃えられる便利な時代がありましたが、先ほど、高木さんの時にお話ししたように、時代とともに、商店が少なくなっていました。今では、薩摩地区だけでなく、町内多くの地域が同じような状況になりつつありますが、こうした状況を解決するため、今、町では新しくお店を作りたい方、始めたい方の相談に乗ったり、空き家になったお店の紹介、お店を新しく作ったり、リフォームしたりするときのお金の支援など、町内で新しくお店が増えるような取組を進めています。

ただ、飲食店については、新しくお店を始める方がいらっしゃいますが、子どもたちが買い物できるようなお店は、なかなかできない状況です。小野原さんから提案があった、イオンのような大きなお店が町内にあれば、時間をかけて遠くまで買い物に行く必要がなく、また、子ども向けの商品もたくさん売っているのも、子どもからお年寄りまで、多くの町民の皆さんに喜ばれると思います。特に求名地区にはお店が少なく、車で買い物に出かけないといけない状態になっていますので、新しいお店ができれば、地域の皆さんの生活も便利になって喜ばれると思います。今の時点で、閉校後の求名小学校の空き教室をお店として利用するという提案は、実際にお店を経営しようとする人が見つかるのか、また、経営しても儲かるのか、といった問題が多くあり、実現は難しいと考えていますが、同じく閉校となる永野小学校と同じように、公民館長さんを中心に、地域の皆さんで新たな活用について話し合いをしていただくようお願いをしたいと思います。

また、町の方でも、地域の皆さんに喜ばれるような活用が何かないか、考えていきたいと思っています。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありましたが、小野原さんから何か質問はありませんか。

○小野原議員

すぐにお店を作ることは難しいと思いますが、町内の学校には購買部のある学校があると聞きました。普段、私たちが学校で使うノートや鉛筆など学校で買うことができるようになることはできませんか。

○教育総務課長

学校でノートや鉛筆を買えるようにできないかとのことですが、私たちおじさんたちが小中学校に通うころは、学校に必ず購買部があり、休み時間に必要な文具などを買っていたことを記憶しています。しかし、現在は、学校に購買部がない学校が多いようです。

町内の小中学校で購買部のある学校が山崎小、盈進小、宮之城中学校で、残りの学校は、ネームやノートだけを販売したり、小野原さんの学校と同じように文具の販売や、購買部のない学校がいくつかあります。時代の変化や学校の状況によって、その取組がさまざまあります。

小野原さんからありました「学校で使う文房具などを学校で買えるようにできないか」について、早速、学校へお伝えし、子どもたちや保護者、先生方を含め、学校で十分、検討していただくようお願いしてみたいと思います。

○上別府議長

以上で、小野原希歩さんの質問を終わります。

次は、9番、有馬怜菜さん、お願いいたします。

【 9番 有馬 怜菜 登壇 】

○有馬怜菜議員



求名小学校、6年、有馬怜菜です。

私の住んでいる求名地区には、ほとんどお店がありません。なんで求名地区にはお店がないのですか。求名地区にもお店があれば、遠くまで買い物にいかなくてもよくなります。それに、私は好きなキャラクターがありますが、そのキャラクターの商品を売っているお店はさらに遠くまで行かないとないので、新しい商品が出てもすぐには買いにいけず、困っています。

だから、お店がほとんどないこの求名地区に、子ども向けのお店を作ってほしいのですが、できないのでしょうか。子ども向けのお店を作れば、地域の子もたちももっと外に出てきて、町が活性化されると思います。個人的にはキャラクターショップがほしいと思いますが、映画館やボウリングなどの遊びながら運動のできる施設もあれば、子どもたちがたくさん遊びにくると思います。私は、子ども向けのお店ができたなら、友達と一緒に買って買い物したり遊んだりできるからうれしいです。

また、お店ができたなら、さつま町の人口も増えると思います。さつま町は他のところと比べてお店が少ないし、特に私の住んでいる求名地区にはほとんどお店がないから、人口が少ないのではないかと思います。普通はお店が少ないところは、不便なので住みたくはありません。だから、そこに子ども向けのお店ができたなら、子どもたちはそこに住みたいという気持ちになるので、子どものいる家族がもっと住みたいと思ってくれるようになるかもしれません。

せん。

私は、子ども向けのお店ができれば、町も活性化され、人口も増える可能性があり、何より友達と買い物ができてうれしいので、作ってほしいです。

【 9番 有馬 伶菜 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

有馬伶菜さんから「子どもが楽しめるまちづくりについて」ご質問がありましたので、お答えします。

まず、有馬さんから「なぜ、求名にお店がないのですか」とご質問をいただきましたが、先ほど、高木さんや小野原さんにもお答えしましたとおり、求名地区には、その昔、たくさんのお店がありました。求名小学校の周りに、キャンディー屋さんや雑貨屋さん、本屋さんなどがあったとの資料が残っており、当時の子どもたちが、友達と一緒に楽しく買い物をしている様子が目に浮かびます。しかし、後継ぎがいなかったり、車社会の発達による影響で、地元商店の利用が少なくなり、お店が減っていったと考えられます。

「子ども向けのお店をつかってほしい」との要望についてですが、キャラクターショップや、映画館にボウリング場など遊び場がほしいというお話でしたので、私が思い浮かべるイメージとしては、イオンのような大型施設を想像したところです。このような施設ができれば、有馬さんが友達と楽しく遊んだり、買い物をしたりできますし、子どものいる家庭が住みたいと思う町になるかと思えます。しかし、先ほど、井龍さんのご質問でもお答えしましたが、残念ながら今のところ新しい施設ができる計画はないところです。

新しい施設を作ることはできませんが、現在、求名地域では公民館長さんを中心に、地域の活性化に取り組んでいらっしゃいます。先日は、夏祭りも開催されたようですし、年末にはクリスマス会など、子どもたちが楽しめるイベントを「南の家」や「ある町医者記念館」を中心に計画されていると聞いています。毎日難しいかもしれませんが、まずは、週末や月末などに地域の方が一緒になって、みんながワクワク、楽しくなるような子ども向けのお店を開くイベントを計画したりすることも、地域の活性化につながり、その一歩が求名に住みたいと思う人を増やすきっかけになるかもしれませんので、地域の方と一緒に考えていきたいと思えます。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありましたが、有馬さんから何か質問はありませんか。

○有馬伶菜議員

特にありません。ありがとうございました。

○上別府議長

以上で、有馬伶菜さんの質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。再開は概ね11時20分とします。

【 休 憩 】

○上別府議長

休憩に引続き、会議を開きます。

次は、10番、草留虎太郎さん、お願いします。

【 10番 草留 虎太郎 登壇 】

○草留虎太郎議員



宮之城中学校、3年、草留虎太郎です。

さつま町の農業の特色について質問します。

ぼくの身の周りには、農業に携わっている方が多くいらっしゃいます。そこで質問しますが、さつま町の農業の特色はなんですか。また、さつま町の農産物をどうやって売り出しているのか教えてください。

また、さつま町産の物を販売する場所を作るのはどうですか。

【 10番 草留 虎太郎 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

草留虎太郎さんから「さつま町の農業の特色について」ご質問いただきましたので、回答いたします。

さつま町の基幹産業は農業で、令和2年の「農林業センサス」という国の調査では、耕地面積2,217haのうち、水田の面積が1,572haであり、耕地面積の約7割を水田が占め、川内川、またその支川沿いに、広大な田園風景が広がっています。

農業経営の面では、稲作を中心に畜産、施設園芸などの複合経営に取り組む専業農家が多く、また、稲作を行う兼業農家も多いところです。生産されている品目についてあげてみますと、さといも・かぼちゃ・ごぼう・トマト・いちごなどの野菜や、ハウスきんかん・梅・温州みかん・ぶどう・なし・マンゴーなどの果樹の産地であり、中津川地区においては、県内で唯

一「ヒノヒカリ」や「あきほなみ」といった品種のお米の種もみを栽培し、県内に広く流通しています。

このような豊富な農作物に付加価値を付けるために、6次産業にも取り組み、農家の所得向上につながるようにしています。

良質な品物を広く販売するためには、草留さんから提案があったように、駅や商業施設など人がたくさん集まる場所で、さつま町の特産品を販売していくことも必要です。

現在、町では農産物の販路拡大の為、さつま町と連携協定を結んでいる、城山観光株式会社や鹿児島銀行などと協力し、鹿児島市内でさつま町の農産物を知ってもらうため、アンテナショップの開催などの取り組みを行っています。また、毎年、北さつま農協の組合長と一緒に、大都市圏の市場で、私自ら「トップセールス」を行うなど、町内産の農産物の売り込みと、県外での販路拡大に取り組んでいるところです。町内でも、農家の皆さんが自ら出荷することのできる「農産物直売所」が5か所ありますし、鹿児島市内にある「鹿児島ふるさと物産館」、「与次郎おいどん市場」、「たわわタウン」などに、北さつま農協が窓口となり、出荷・販売が行われているところです。

草留さん世代の方が、「農産物直売所」に行かれる機会は少ないかもしれませんが、秋には、直売所でのイベントや5つの直売所をまわるスタンプラリー、11月には産業祭も計画されていますので、ぜひ、そういったイベントにも自ら足を運んでいただき、目で見たいと思います。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありました。草留さんから何か質問はありませんか。

○草留虎太郎議員

今までイベントなどに参加したことがありませんでしたが、先ほどの話を聞き参加してみたいと思いました。さつま町の農業の特色をたくさん知ることが出来ました。ありがとうございました。

○農政課長

先ほど町長からもありましたが、さつま町での秋の大きなイベントとしてさつま町産業祭 & JA 農業祭が今年の11月19日、宮之城運動公園で開催されます。出店者募集も既に始まっておりますけれども、牛肉の大特価販売や青森県鶴田町のリンゴの販売等も計画されておりますので、ぜひ参加していただきたいと思います。それから町内5つの直売所と紫尾温泉や宮之城温泉をめぐる、町直売所連携会によるスタンプラリーや鹿児島県北薩地域振興局主催の北薩地域をめぐるスタンプラリー、日特スパークテックWKS株式会社による創業50周年を記念したスタンプラリー等もありますので、そちらの方へもぜひ参加しいろいろな特産品を購入していただきたいと思います。

○上別府議長

以上で、草留虎太郎さんの質問を終わります。

次は、11番、前野心絆さん、お願いします。

【 11番 前野 心絆 登壇 】

○前野心絆議員



宮之城中学校、3年、前野心絆です。

町の少子高齢化について質問します。

わたしは広報紙のうぶごえとおくやみのページを見て、亡くなった人に対し、生まれてくる子どもが少ないことに危機感を感じました。子ども・子育て支援の拡充により、子どもを産み育てやすい環境が整うと思いますが、町の取組について教えてください。わたしは、子育てには経済的な問題が大きいと思います。例えば近年の物価高騰により、おむつ代やミルク代が経済の負担になっているのではないかと考えます。そういった子育ての不安を少しでも軽減できれば、安心して産み育てることが出来るのではないかと思いますがいかがでしょうか。

【 11番 前野 心絆 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

前野心絆さんから、「少子化対策について」ご質問いただきましたので、回答いたします。

生まれてくる子どもが少ないことに危機感をもたれた前野さんと同じように、私もさつま町の

人口が減っている状況に強い危機感をもっています。人口減少については、出生数の減少だけが原因ではありませんが、前野さんが生まれた、平成20年と令和4年を比較してみると、平成20年に生まれた子どもは165人であるのに対し、令和4年は73人でした。また、人口で比較すると、平成20年は25,150人であるのに対し、令和4年は19,645人と、実に5千人以上もの人口が減少しています。

この人口減少はさつま町だけではなく、国全体で減少していて、平成20年と令和4年を比較すると、(1億2,769万2千人であるのに対し、令和4年は1億2,494万7千人と、)約270万人もの人口が減少しています。この数字は鹿児島県全体の人口の1.7倍に当たります。(鹿児島県+宮崎県=266万人、広島県277万人※外国人含む)

また、出生数についても、平成20年が109万人なのに対し、令和4年は77万人となっており、平成20年をピークに減少しているという報告されています。こちらも大幅な減少で

あることがわかります。

人口減少は国全体の問題でもあります。さつま町では、どうしたら住む人が増えるのか、また、生まれる子どもが増えるのかを考え、町ならではの取組を行っています。その中でも、少子化対策については、前野さんのご意見にもあるように「安心して産み育てることのできる支援」につなげるため、町では子育て世帯の経済的な支援や、地域、企業など様々な場で、年齢や性別を問わず、全ての人が子どもや子育て中の方々を応援する社会全体の意識を変える取組が必要と考え、妊娠前からサポートを行っています。例えば、お子さんを望まれても、なかなかお子さんを授かる事が難しいという悩みをお持ちのご夫婦には、不妊治療費の一部となるよう、1年間あたり30万円を助成しています。

また、残念ながら、さつま町には、赤ちゃんを産むための産婦人科の病院がないため、妊娠された場合、薩摩川内市や伊佐市など、近隣の産婦人科病院を受診しなくてはなりません。ただ、町外の病院を受診するためには、交通費も必要となりますし、新たな命を迎えるためには、いろいろな準備も必要になります。そのため、妊娠8か月を迎えた方を対象に、「出産準備応援給付金」として、3万円を給付しています。

このように、「安心して産み育てることのできる支援」を行うのは、出産の時ばかりでなく、お子さんが保育園に通う間は「保育料の軽減」、小・中学校に通う間は「給食費の助成」など、他の自治体にも負けない支援を行っています。

このような経済的な支援のほかには、何か心配事がある時や不安がある時にすぐに相談できる体制を整え、悩んでいる人、困っている人に寄り添いながら、妊娠期から子育て期までサポートを行っています。

前野さんもどうでしょうか。例えば、バレーの試合で「フルセット」戦うことになった時に、疲れて、勝つためにはどうしたらいいのだろうと迷っても、まわりのみんなの応援やサポートで、元気がでて切り抜けられた経験がないでしょうか。私たちもそのように、相手が必要としている時に、話しを聞いたり、助言したり、一緒になって考えることのできる、顔の見える相談支援を今後も続けていきたいと思っています。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただ今、上野町長から回答がありましたが、前野さんから何か質問はありませんか。

○前野心絆議員

子どもが産まれる前から、中学校を卒業するまで、様々な支援があることに驚きました。これだけ手厚い支援があることを知っていると、安心して子どもを育て続けられると思います。誰かが近くで見てくれているというのはとても大きな安心につながるので続けてほしいです。

ほかにも、働きながら子育てをされている家庭も多いと聞きます。「子どもの具合が悪いけ

ど、仕事にはいかないといけない。」そういった場合の支援はあるのでしょうか。

○子ども支援課長

ご質問の「子どもの具合がわるい時の支援」ですが、子どもさんが病気の時、保護者が仕事のため自宅での保育が難しい場合、町内の船木にある認定こども園クオラキッズ内の「病児保育所 かんがるー」で小学校2年生までの病気の子どもさんを一時的にお預かりしています。

病気の子どもさんを預けて仕事に向かわれる保護者は、多くの心配や不安もおありかと考えます。保護者が安心して預けることができるように、病気の子ども専用の部屋で看護師さんが見守り、必要に応じ小児科の先生の助言もいただき運営していただいているところです。

○前野心絆議員

ありがとうございました。

○上別府議長

前野心絆さんの質問を終わります。

以上で、通告に基づく一般質問を終わります。

本日の日程は、全て終了しました。閉会にあたりご挨拶を申し上げます。

今日は朝早くから参加し、質問していただきありがとうございました。始めのあいさつで、女団連の会長の横山さんから民主主義についての話がありました。皆さんがいらっしゃるこの議場は、民主主義の砦という格式のある場所です。ここで皆さんは1日民主主義を体験することができました。学校で社会の時間に民主主義という言葉が聞かれると思います。それってなんだろうなあと考える時があるかとおもいますが、今日体験したこのことを、ぜひ学校や家庭に帰った時に、周りの人に話してください。そしてできたら、夏休みの思い出等の作文に書いてくださると大変嬉しく思います。今日は町の商業のこと農業のこと子育てのこと、それから給食のこともありました。そして学校の跡地利用ということも出てきました。交通の問題も出てきました。いろんな分野において皆さんが常日頃から疑問を持っているのだろうという事を感じさせていただき、改めて頭の下がる思いがいたしました。そして保護者の皆さん、何度もご足労いただきありがとうございました。今後共、この子どもたちと家族の皆さんが頑張っていて地域のことや家庭のことに一生懸命頑張っていていただくことをお願いいたしました。それから、町長をはじめとして、担当課長、職員の皆さんが半日休日を返上して参加していただきました。心からお礼を申し上げます。これからもこのような貴重な体験ができるかもしれません。また、さつま町のことに興味を持っていただきたいと思います。以上で挨拶いたします。

協力いただきました町長、教育長をはじめ、各課長の皆さん、執行部の皆さん、本当にありがとうございました。以上をもちまして「あなたも1日議員」を閉会いたします。

午前11時35分 閉会